

8 せんじん 先人のはたらきと、ふん 町の文化



奈半利川のうつりかわり

もじが古くて
読めないけど、
何が書いてある
のかな？

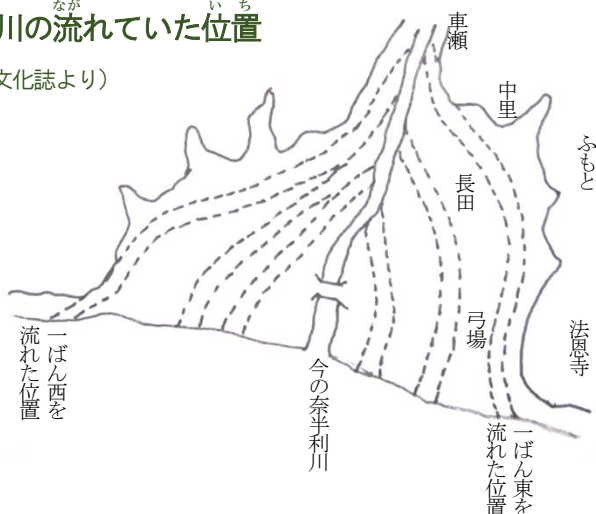


奈半利川は、馬路村魚梁瀬から流れはじめ、途中で多くの細い川が集まって、太平洋に流れこんでいます。

むかしは、大雨がふるたびに川の流れている場所がかわり、洪水がおこりました。洪水のたびに堤防がこわされましたが、長い年月をかけ、多くの人々の手によって、りっぱな堤防がつくられました。

奈半利川の流れていた位置

(田野町文化誌より)



かんおん ひ
感恩碑

あゆの せ こうえん
鮎乃瀬公園のていぼうの上に
建てられています。

(1) 先人^{せんじん}のはたらき

おばあさんの話

「奈半利川^{すていし}の捨石^{すていし}」

むかしの奈半利川は、大水のあとは土手^{どて}が切れ、田畑^{たはた}が土砂^{どしゃ}でうまってしまいました。

そこで今から 200 年ほど前石割人夫^{いしわりんにふ}が旅谷^{たびたに}から割りだした石を、農民^{のうみん}たちが奈半利川の土手^{まも}を守るために運びました。

ていぼう^{つく}を造るときに、水のいきおいを弱め、岸^{きし}を守るために川^なに投げ入れた石を「捨石^{すていし}」といいます。小さいものでも 1 トン、大きいものでは 5 トンもあったそうです。すべてが手作業^{て さぎょう}で、たいへんな苦労^{くろう}があったと思われます。役人^{やくにん}の山川孫次郎^{やまかわまごじろう}の教えにしたがい、約 500 個の「捨石^{すていし}」を積み上げたといいます。

その後も工事^{こうじ}が続けられ、多くの農民^{のうみん}の努力^{どりよく}によって、奈半利川のはんらんを防ぐ^{ふせ}ことができるようになりました。



「千貫岩^{せんがんいわ}」のゆらい

大むかし、大水が出て奈半利川のていぼうが切れそうになったとき、ちょうど通り^{とお}がかった六十六部^{ろくじゅうろくぶ}という人が、大水がしずまるようにいのりました。

すると、山の上にあった大岩^おがていぼうの上に落ちてきて、ぐうぜんにも川岸^{かわぎし}がくずれるのをふせいでくれました。しかし、六十六部^{ろくじゅうろくぶ}は岩の下じきになって、なくなっていました。村人たちはこの岩を「千貫岩^{せんがんいわ}」と名づけたそうです。 ※ 1 貫^{かん}: 3.75 kg

むかしの奈半利川（1958年ご



おじいさんの話

明治33年に生まれた安岡大六さんは、奈半利中学校最初の校長先生で、奈半利町だけでなく、安芸郡全体の歴史などを調べて、やく50冊の本を書いたんだよ。

奈半利町の発てんにつくした人たちのことが書かれているので、今のわたしたちのくらしに、どのようにかわっているのか調べてみるといいね。

りこちゃんたちは、地域のいろいろな場所に建っている石碑や像について、どんなものがあるのかさがしてみたり、くわしく調べてみることにしました。

生活向上に努めた岩内久次 (1867～1944)

岩内久次は学校に行っていない子どもたちに、学校で勉強するようにすすめたり、みんなの生活をよくするために、道路をなおしたり、防波ていなどを造りました。また争いごとを止め、話し合いの大切さを教えました。



福祉センター入口の石碑

子どもたちを教育した佐々木大潮 (1838～1905)



善照寺寺子屋記念碑

江戸時代、子どもたちは、寺で読み書きを習っていました。

善照寺の住職、佐々木大潮は、寺子屋時代の20年、そして小学校時代の20年の長い間、子どもたちに勉強を教え、後に活やくするたくさんの人たちを育てました。

と さ こうつうおう の むらも く ま 土佐の交通王とよばれた野村茂久馬 (1869~1960)

幼^{おきな}いころ佐々木大潮に学んだ野村茂久馬は、高知市に出て自分ひとりの力でいろいろな仕事^{しごと}を始めました。

バス、鉄道、船などの会社をつくったことから「土佐の交通王」とよばれるようになりました。

戦^{せん}後になると、米ヶ岡^{よねがおか}に新しく田畑^{たはた}を開^{ひら}く計画を立てたり、須川^{すがわ}にしょうのう工場をつくるなど、力をつくしました。



多気ヶ丘公園にある野村茂久馬碑



よねがおか たいけん のうそんこうえん たはた
米ヶ岡生活体験学校から見た農村公園と田畑

きょういく はつ さかもとう じ きち 教育の発てんにつくした坂本宇治吉

今の体育館^{たいいくかん}ができる前は、同じ場所^{ばしょ}に講堂^{こうどう}が建^たっていて、小・中学校^{つか}がいっしょに使^{つか}っていました。

講堂^{こうどう}は昭和33年、坂本宇治吉^{さかもとう じ きち}たちの寄付^{きふ}によって建^たてられましたが、平成2年に体育館^{たいいくかん}に建^たてかえられました。体育館^{たいいくかん}に
おいているピアノも、坂本宇治吉^{さかもとう じ きち}がおくったものです。



体育館入口にある坂本宇治吉像

カツオ漁業の発てんにつくした大西源吉 (1894~1970)



加領郷の港を望む大西源吉碑

大西源吉は、すもうが大好きで、琵琶瀧の名前で、すもうをとっていました。ぎょせんにもびわまる漁船にも琵琶丸という名前がついていたそうです。

大西源吉は、昭和の初めのころ、60トンのカツオ・マグロ船を造り、台湾の南のほうまで出て、日本で最初に南洋で漁業を始めた人です。

そのころの船には、細かく方向を調べる計器がありませんでしたが、天体や磁石の針が示す方向から、魚のいる場所をはかり、多くの漁場を見つけました。

高知県だけでなく、全国のカツオ漁業に大きな役割をはたしました。



とれたての金目鯛



加領郷港

奈半利港



しょうわ だい ふなつみ さぎょう
昭和20年代の船積作業



みなと ふじむらろくろう みなと港をつくった藤村六郎 (1888~1968)

むかしから多くの人たちが、奈半利
から木材をつみ出すための港が必要だ
と考えていました。

すなはま みなと
砂浜に港をつくるのはたいへんでし
たが、1952年、藤村町長や議会の
はたらきで、港をつくることになりました。

その後、15年の年月をかけて、奈半
利港はできました。

むかしは、浜辺のさん
ばしまで運んできた木材
を海になげこみ、船につ
みこんでいたそうだよ。

奈半利港にある藤村六郎碑

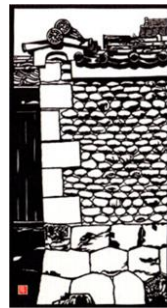
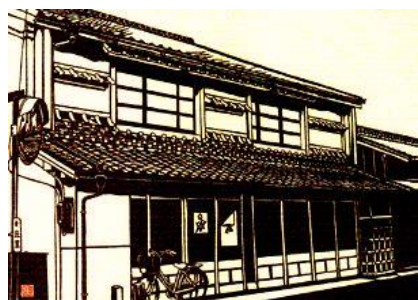


みなと
港にあるドックでは、
遠くの漁場に出ていく船
の、整備や修理、点検など
をしています。

(2) 町の文化や行事

「登録有形文化財」という制度が、1996年(平成8年)にできて、
建てられて50年以上たっている建造物を、歴史的な遺産として、
ゆるやかな規制のもとで守っています。

文化財には、住宅・会社・寺・橋・トンネルなどがあります。
奈半利町では、現在13か所の文化財が登録されています。



町の行事

- | | |
|-------------|----------|
| ○ なはり観光フェス | 4月下旬 |
| ○ 港まつり | 8月16日 |
| ○ 奈半利八幡宮祭り | 10月第3日曜日 |
| ○ 加領郷信守神社祭り | 旧暦9月25日 |
| ○ 多気・坂本神社祭り | 10月25日 |

とうろくゆうけいぶん か ざい

奈半利町の登録有形文化財

No.	名 称	物 件
1	藤村製絲株式会社	西藏・石塀
2	森家住宅（旧野村茂久馬邸）	主屋・蔵・東西南石塀
3	野村家住宅	主屋・東南石塀
4	濱田家住宅（増田屋）	主屋・蔵
5	濱田家住宅（増田屋）	レンガ蔵・店舗
6	西尾家住宅	主屋・台所・蔵・納屋・レンガ塀・便所
7	齊藤家住宅	蔵
8	竹崎家住宅（高田屋）	主屋・離れ・蔵
9	正覚寺	本堂・石垣
10	東山家住宅	主屋・蔵・便所・風呂棟・石塀
11	濱田典弥家住宅	主屋・かま屋・米預かり場・土蔵・石垣塀
12	大西家住宅（加領郷）	主屋
13	旧弘瀬家住宅	主屋

